

1. 背景とねらい

昭和59年度における指導上の参考事項「パーソナルコンピュータを利用した土壌診断システム」は、これまでに県内の試験研究機関や農業改良普及指導等で広く利用されている。しかし最近市販される16ビットパソコンでは、標準OSとしてMS-DOSが採用されていることから、上記システムの今後の利用にあたりMS-DOS上で動作することが、操作性向上のためには必要となるので、システムのMS-DOS化を検討するとともに、機能的に不十分な点について一部変更した。

2. 技術内容

1) 改良点

(1) システムのMS-DOS化

従来のシステムプログラムは、N88-日本語BASIC(86)で作成していたが、これをMS-DOS上で動作するN88-日本語BASIC(86)に変更した。これは他の多くのソフトがMS-DOS上で動作するので、共通のOSを利用するためである。

(2) データファイル機能の追加

従来のシステムでは、土壌診断結果をディスプレイ上でみるが、プリンターに出力するかの機能しかなかったが、これにディスク上にファイルして格納できる機能を追加した。

2) 使用法

(1) システムプログラムの入ったディスクドライブAに入れ、リセットを行う。

(2) タイトル表示後、土壌診断結果の出力方法を選んでくるので、プリンターかディスクを選択する。

(3) しばらくしてシステムは初期メニュー画面となり、ディスクの場合ファイル名と使用ドライブ名を選んでくるので、必要事項を入力し、土壌診断が可能となる。

(4) 格納されたファイルのディスプレイかプリンターへの出力は、システムをMS-DOSに戻し「TYPE」コマンドを利用する。なおディスプレイ表示を連続スクロールさせず、1画面(23行)ごとに行う場合には「MORE」コマンドを用いる。

3. 指導上の留意事項

1) 格納ファイルの拡張子はBDTであり、ファイル名は「000, BDT」となる。

2) 格納ファイルはMS-DOS標準ファイルであり、各種のMS-DOS版ソフトで利用可能である。

3) 縮小印字ユーティリティを利用すると80桁プリンターに出力できる。

4) 土壌診断結果のデータベース化については検討中である。

4. 参考文献・資料

1) 昭和59年度指導上の参考事項「パーソナルコンピュータを利用した土壌診断システム」

2) 若手園試研報 6: p56~65, 1985

